

暦文協★01の活動も13年目、明治改暦から150年の節目の年であり、コロナ禍を機にスタートしたハイブリッド形式でのイベント開催も定着してまいりました。

<https://www.rekibunkyo.or.jp/>

●暦文協ミニフォーラム

まず、4月20日には北とぴあにて暦文協ミニフォーラムを開催、リモートと会場あわせて約90名の参加をいただきました。トークセッション「明治改暦150年記念 カレンダーの今後の展望」では、最初に奥野卓司常任理事より問題提起をいただき、それにカレンダー業界のベテラン3名がパネリストとしてトークするという形で進行しました。

論点1 コロナ禍とカレンダーの小型化・薄型化については、コロナ禍・景気悪化・円安等で部数は減っているものの、新出版点数は大きく変わっておらず、BtoBが中心ということもあり、あまり意識されてはいないようです。論点2 デジタル化については、iPhone登場で腕時計/手帳/カレンダーはなくなると言われたけれど、デジタルとアナログは使い分けができており、減ったとしてもなくなりはない、紙は情緒安定にもつながるとの発言をいただきました。論点3 ユーザーとくにZ世代の視点からとらえたカレンダーについては、インテリア要素より実用性・機能性、省スペース・パーソナルユース、自分の好きな趣味のカレンダー、環境意識などなど。会場からも活発な意見が飛び出し、さまざまな特徴が見えてきました。



トークセッションの様子

★01 暦文協：一般社団法人 日本カレンダー暦文化振興協会の略称 (国天ニュース 2011年10月号参照)

<https://www.rekibunkyo.or.jp/>

●第13回総会&講演会

9月1日には東京大学弥生講堂一条ホールにて第13回総会&講演会を開催、リモートと会場あわせて約80名の参加をいただきました。

まず、サイエンスライター・気象予報士の今井明子さんによる「日本の暦と気象」では、四季と太陽・大気循環といった基礎から、天気図で見る日本の四季、とくに集中豪雨・梅雨・台風・山雪/里雪の解説に、雨季/乾季・暑さ寒さは彼岸まで・入梅/梅雨入り・気温のピーク・日の出入りのピークなどの豆知識を交えながら、講演をいただきました。

続くトークセッション「世界の気候と日本の四季」では、東洋運勢学会会長・聖徳會主宰の三須啓仙さんも交え、今年の猛暑・異常気象・ゲリラ豪雨・地球温暖化といった日常会話にもよく登場する話題や、暦と気象のずれ、気象予報士・気象会社・気象庁の役割分担など、気になるテーマが次々展開されました。

総会では、事業・会計報告や今後の事業計画などが承認されています。



今井明子さんによる講演



トークセッションの様子



総会の様子

●新暦奉告参拝

恒例の12月3日カレンダーの日については、人数制限のうえ明治神宮にて新暦奉告参拝を開催、講演をライブ配信しました。

参拝は神楽殿前からの参進に始まり、直会殿にて修祓を受け、本殿にて参拝・玉串拝礼、その後神楽殿にて祈願の祈祷、巫女舞の奉納が執り行われました。

参拝の後は、国立歴史民俗博物館の小池淳一教授から「暦の神々と民俗」と題し、暦の場所～玄関先・仏壇・神棚～、暦首に埋め込まれる信仰～土公神/甲子表/庚申表/己巳表～、暦から生まれた神々～三隣亡～など、暦がどのような形で生活に根付いているか、民俗学の立場で解説いただきました。

続いて、中牧弘允理事長による「暦予報」では、2024年にまつわるさまざまな暦ネタが紹介されました。

暦文協では、今後もさまざまな形で活動を続けていく予定です。



参拝の様子



小池淳一教授による講演



中牧理事長による暦予報